

長野の林業

No.
395
2024.9.10

特集

長野県における近年の山地災害

トピックス

- ・フォレストバレーの取組
- ・焼津鯉節水産加工業協同組合からの寄附
- ・信州山の日10周年

県森連だより



令和4年8月 県道応急対応後の様子



令和4年8月 災害発生直後の溪流の様子



令和4年8月 溪間工着手前の様子



令和6年7月 溪間工完了後の様子

令和4年8月6日、小川村小池裏地区において最大24時間雨量129.0mm、最大時間雨量69.0mmを観測する豪雨災害が発生しました。

この豪雨により土石流が発生し、土砂が下方の県401号線に流出したため一時通行止めとなる被害が発生しました。

溪流内には土砂や倒木が堆積しており次回の降雨等により再度被害を与える恐れがあったため、災害発生直後から災害関連緊急治山事業による溪間工(谷止工)を施工し、荒廃溪流の復旧整備を行いました。



長野の林業
フルカラー版

長野県における近年の山地災害

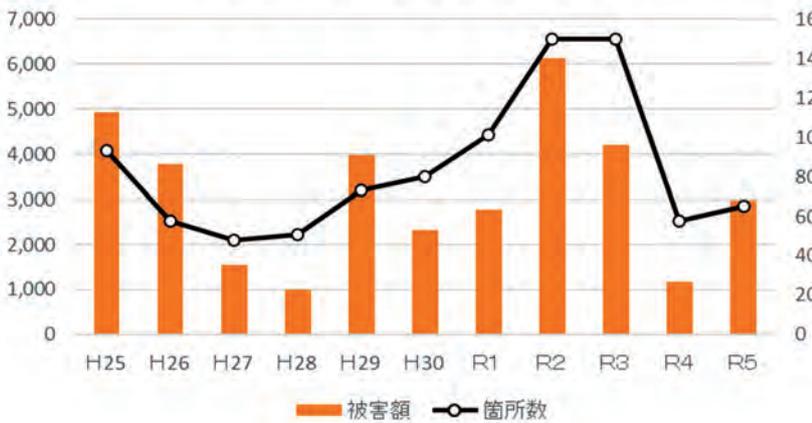
長野県は急峻な地形や複雑かつ脆弱な地質構造にあり、山地災害が発生しやすい条件下にあります。近年の山地災害発生状況をみると、年によって発生状況に波がある中で令和2年は7月豪雨災害、令和3年は8月・9月豪雨災害と立て続けに大きな災害が発生したこともあるため、災害の起きやすい危険箇所を事前に把握し効果的かつ効率的な対策に繋げることが課題となっています。林務部では、事前防災対策として、航空レーザ測量や人工衛星の情報などの最新技術の活用により、危険箇所の把握に努めています。

今年度は4月に松本地域で日雨量80ミリを超える降雨があり、溪流から流出した土砂により市道が一時通行止めになる被害が発生しました。

林務部としましては地域の皆様に安心して生活していただけるよう、被災箇所の早期復旧に全力で取り組んでいきます。

また、災害復旧工事にご協力頂いている地域の皆様、復旧工事にご尽力頂いている関係者の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

近年の山地災害発生状況



令和6年豪雨災害の状況



常念岳の登山口へ続く林道路面が一部崩落する被害を受けました。【安曇野市】



溪流から下方の市道に土砂が流出し、一時通行止めになりました。【松本市】

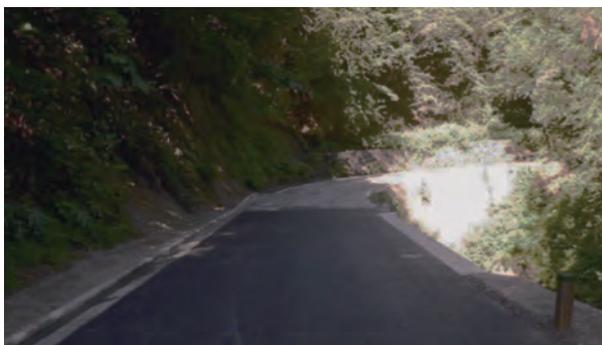
災害復旧の進捗状況（林道）

令和4年7月・8月・9月及び台風15号により発生した豪雨により129箇所（林道施設）が被災し、規模の大きい15箇所について、南信州、長野管内の関係市町村が林道施設災害復旧事業により復旧工事に取り組みました。

写真は上水内郡小川村の林道で、路肩決壊の復旧工事が行われ令和5年度に完了しました。



R5.5 撮影



R5.10 撮影

災害復旧の進捗状況（治山）

令和4年度、県内全体で延べ72件の山地災害が発生しました。県では、災害発生直後から特に規模が大きく緊急性が高い4箇所について災害関連緊急治山事業により早期の復旧整備に着手するなど、災害復旧に取り組みました。

写真は長野市勝負平地区において令和4年7月豪雨により山腹崩壊が発生した箇所の復旧状況です。



R4.7 撮影



R5.11 撮影

今年度も、県内の林道で災害が発生しており、関係者の皆様のご尽力により災害復旧が進んでおります。林道を管理する市町村等では、自然災害のため通行止めの場合があります。通行止めの看板等があった場合は大変危険ですのでその先への通行はお控えください。

【信州の木活用課】

令和5年度も、県内各地域の山地で災害が発生しましたが、関係者の皆様のご尽力により、着実に災害復旧が進んでおります。この場をお借りして御礼申し上げます。

【森林づくり推進課】



「木曾谷・伊那谷フォレストバレー」キックオフフォーラムを開催しました

木曾谷・伊那谷は、古くから木や森とともに暮らし、林業や伝統工芸などを今に受け継ぎ、木や森に関する学びの機関や試験研究機関等が比較的近距离の位置で集積する、全国的にも特徴ある「木や森の知の集積地」と言える地域です。

この地域の強みをさらに高度に発揮するため、県では、関係機関の連携により、木や森に関する「人材育成」と「イノベーション創出」を目指す「木曾谷・伊那谷フォレストバレー」の取組に本年度から着手しました。

木曾谷・伊那谷フォレストバレーでは、木や森を学び、起業したい人材が全国から訪れるような地域を目指すとともに、かつての木や森と人との関係性の再生を目指しています。

令和6年8月8日(木)には、その推進体制である「木曾谷・伊那谷フォレストバレー運営協議会」を関係者とともに立ち上げ、本年度の事業計画等を決定しました。本年度は、機運の醸成や認知度の向上を図りながら、人材育成・創業支援プログラムの開発に着手することとしています。

また、同日には、木曾町文化交流センターにおいて「キックオフフォーラム」を開催し、阿部知事から木曾谷・伊那谷フォレストバレーの紹介や、地域で様々な活動を行う事業者らとともに、「フォレストバレーが描く木や森の学びと起業の未来像」をテーマにトークセッションを行いました。

登壇者からは、この地域を目指したきっかけや、この地域だからこそできることが事業者や暮らしの視点から語られました。木曾谷・伊那谷フォレストバレーに期待することとしては、自

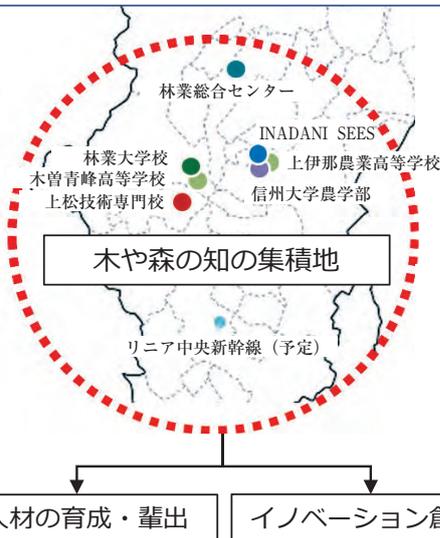
然豊かなこの地域の強みを活かした六次産業化をはじめ、木や森をテーマにした地域づくりと拠点の形成、文化を形成するような息の長い取組への期待が語られ、参加した約二百人の期待感に包まれました。

今回のフォーラムを皮切りに、木曾谷・伊那谷フォレストバレーの目指す姿の実現に向け、関係機関の連携により、各種プロジェクトの展開や関連行事の開催等に取組んでまいります。

【林務部信州の木活用課】

【木曾谷・伊那谷フォレストバレーとは】

- ① 木や森に関する学びや人材育成の拠点地域
- ② 森林資源を活かしたイノベーションと雇用が生まれる地域
- ③ これらが地域ブランドとして確立し、国内外の交流が生まれる地域



トークセッション参加者(左から)
 ・信州大学名誉教授 植木達人氏(ファシリテーター)
 ・阿部知事
 ・(同) AGEMATSU LIVING Laboratory 代表社員 小林信彦氏
 ・(株)木曾ツリーワークス 代表取締役 千村格氏
 ・(株)やまとわ 森事業部ディレクター 榎本 浩実氏



会場の様子(約200人が参加)

海から林業も応援！ 焼津鰹節水産加工業協同組合様から ご寄附をいただきました

鰹節製造に使用する薪を長野県の林業事業者から調達している焼津鰹節水産加工業協同組合様（静岡県焼津市・以下「同組合」といいます。）から、企業版ふるさと納税により長野県に対して100万円の寄附をいただきました。同組合からは、令和3年度から毎年100万円、計300万円のご支援をいただいています。

令和6年7月12日（金）に知事の代理として林務部長が同組合を訪問し、木製の感謝状を贈呈しました。



大石組合長へ須藤林務部長から木製の感謝状贈呈

寄附に至った経緯

鰹節製造に必要な不可欠な薪の安定的な確保が課題となっている同組合では、薪を調達している長野県において、林業の担い手不足が喫緊の課題となっており、薪の不足を知り、企業版ふるさと納税を通して、長野県の林業で働く人を応援することで、森林の適切な管理が行われることにより、少しでもお互いが抱えている課題の解決となるよう、ひいては国連の持続可能な開発目標SDGsのうち「陸の豊かさを守ろう」「パートナーシップで目標を達成しよう」につながることを期待され、寄附をいただきました。

寄附金の活用

同組合から、寄附金は林業従事者のために活用してほしいとの申し出がありましたので、林業従事者の振動病特殊健診受診経費や蜂アレルギー検査受診経費、エビネフリン注射器購入経費及び退職金共済掛金の助成といった、現場で働く皆さまの就労環境の改善を図る事業に活用させていただきます。

鰹節製造に必要な薪へのこだわり

静岡県と長野県は隣県ではありませんが、焼津市と長野市は車で約270kmの距離にあります。これだけの距離を運んだとしても長野県産の薪を必要としていただく理由をお伺いしました。

まず、同組合では、使用する薪をコナラに限定しており、他の樹種が混じるだけで求める香りとは変わってしまうそうです。さらに寒冷地で生育した薪は堅くゆつくりと燃えるため「焙乾（ばいかん）」という鰹を燻す工程に向いているそうです。よって、鰹節製造に使用する薪（コナラ）は、原魚（鰹）の次に必要不可欠なものであると仰っていました。

鰹節の加工施設を視察



感謝状贈呈式と同日、鰹節の加工施設を視察させていただき、長野県から調達されたコナラの薪を炉の中で燃やして焙乾を行います

視察させていただきました。長野県産の薪がどのように使われているかご紹介させていただきます。まず、鰹節製造の工程は次のとおりです。

- ① 生切り
（鰹節となるサイズに切り分ける）
- ② 煮熱・骨抜き
（煮ることによってたんぱく質を固める）
- ③ 焙乾
（水分を飛ばしながら薪の薫臭を付ける）
- ④ カビ付け
（水分を減らし、うま味が凝縮される）

③の焙乾という工程で薪が使われ、時間をかけて繰り返し焙乾の作業を行うことで、堅く香り高い鰹節に仕上がります。視察させていただいた施設では、伝統的な焙乾方法である「手火山式」が用いられており、施設中が燻製の香りで満たされています。



大石組合長から鰹節生産工程について説明をいただきました



本枯れ節

また、鰹節を評価する上では、「味はもちろんのこと、「香り」と「形」に加え、「カビ色」というのが重要な評価対象になると聞き、驚きました。長野県は海の無い県ですが、森林から川を通して海へ水が流れ、森林で生育した木材が海の恵みへ活かされており、森林と海が繋がっていることを実感しました。

【信州の木活用課担い手係】



「信州 山の日」10周年記念行事を開催しました！

長野県では、貴重な資源である「山」に感謝し、山の恵みを将来にわたり持続的に享受していくため、平成26年から7月の第4日曜日を「信州 山の日」に制定し、今年度で10周年となりました。10周年を迎えるにあたり、「山に親しむ・山に学ぶ・山を守る」をコンセプトに、意識の高揚と機運の醸成を図るためのイベントを開催しました。

10周年記念式典では、阿部知事が「信州 山の日」の制定趣旨や、登山安全条例の制定・県森林づくり県民税を活用した取組など、制定から現在の取組を紹介し、県民共通の財産であり、日本・世界から愛される信州の山を預かっているという思いを共有しながら、取組を進めていくと発言がありました。

続いて、池田町立会染小学校みどりの少年団・松川村みどりの少年団 計10名と、阿部知事、長野県公式PRキャラクター「アルクマ」、大町市キャラクター「おおまびよん」による「信州 山の日」宣言を行いました。



▲知事あいさつ



▲「信州 山の日」宣言



▲トークイベント「こもれび対談」

展望について対談していただきました。

山と溪谷社雑誌「山と溪谷」

編集長 五十嵐雅人様

澤田由紀子様

トレイルランナー

NPO法人やまぼうし自然学校 代表理事 加々美貴代様

対談では、五十嵐様から「信州の山は日本のリーダーであり、良きリーダーとして今後も引つ張ってほしい」と力強いお言葉をいただくなど、他県や海外と比較した信州の山の魅力や、身近な里山の価値向上について意見が交わされました。

午後は、木工体験や、シミュレーターを用いた林業機械体験、カップ体験など計9ブースを用意し、信州 山の日を楽しんでいただきました！

信州 山の日の様子(映像)は以下よりご覧ください！



▲カップ体験をするアルクマ



▲木工体験



▲林業機械体験

【森林政策課企画係】



信州伐木チャンピオンシップを開催します

今年度、長野県では、チェーンソーの安全かつ正確な操作技術を競う競技会「信州伐木チャンピオンシップ」を開催します。

チェーンソーの操作技術を競う競技会といえば、世界の競技者が集う「世界伐木チャンピオンシップ(WLC)」や、その出場権をかけて国内で競う「日本伐木チャンピオンシップ(JLC)」が開催されていますが、最近では愛知県や岐阜県等、県単位の競技会が開催され、国内各地で関心が高まりつつあります。

今回は、長野県での初めての開催ですが、選手の募集を行ったところ、21名の方から申し込みがありました。先日、本番の競技会に向け、選手対象の事前講習会を開催しました。選手からは「チェーンソーの構造や安全な使い方を改めて学ぶことができた」「普段の現場作業から安全で丁寧な行動を心掛け、本番では高得点を狙いたい」といった感想が挙げられ、自らの技能への気付きと研鑽の機会となっているようです。

こうした競技を通じて、林業関係者の安全意識の向上や林業就業者間の交流が促進されるとともに、林業の魅力の発信や新規林業就業者の確保に繋がることを期待しています。

観覧に事前の申込等は不要ですので、御興味のある方は、是非、当日の競技会にお越しください。

信州伐木チャンピオンシップ

◆開催日 令和6年10月19日(土)

◆場所 長野県林業大学校グラウンド

◆主催 信州伐木チャンピオンシップ実行委員会

(事務局：信州の木活用課)



丸太合わせ輪切り競技
上向き・下向きに傾けて設置した2本の丸太を正確に垂直に輪切りにする技術を競う



伐倒競技(簡易方式)
定められた方向に正確に伐倒する技術を競う

林業薬剤に関するお悩みは、長野県林業薬剤防除協会が解決します！

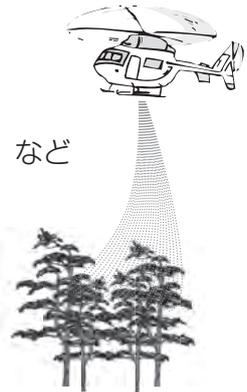
当協会は、林業薬剤の安全かつ適正な使用方法の普及を図り、病虫獣害から森林を守ることを目的として活動しております。

- 県・市町村等で開催する林業薬剤の講習会への講師の依頼。
- 庭の先祖代々の松を守りたい。どんな林業薬剤を使用すればいいの？ など

— 林業薬剤に関するご相談はこちらまで —

長野県林業薬剤防除協会

長野市岡田町30-16 長野県森林組合連合会 内
TEL 026-226-2504 FAX 026-226-2225



正会員

レインボー薬品(株)

丸アグロ信州

サンケイ化学(株)

住友化学(株)

大同商事(株)

保土谷アグロテック(株)

丸善薬品産業(株)

(株)ニッソーグリーン

日本曹達(株)

賛助会員

長野県森林組合連合会

(一社)長野県林業普及協会

(二財)日本森林林業振興会

長野支部

アキレス(株)



秋の記念市のご案内

◆原木 開設26周年記念市

《坂下事務所》 9月26日 (木)

入札開札13時 保証金10万円

◆製品 開設57周年記念市

荷主会結成56周年記念市

《本部事務所》 10月19日 (土)

入札開札9時 保証金10万円

◆原木 創立69周年記念市

「第40回 日本美林まつり」

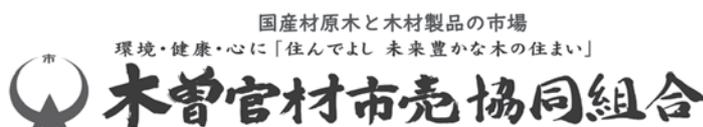
《荻原事務所》 10月22日 (火)

入札開札9時 保証金10万円

9月・10月の市売りのご案内

本部事務所 (製品)	荻原事務所 (原木)	坂下事務所 (原木)	国有林土場等活用 委託販売市売日
特選材市 9月21日 (土)	9月25日 (水)	開設26周年記念市 9月26日 (木)	9月10日 (火)
開設57周年記念市 10月19日 (土)	創立69周年記念市 10月22日 (火)	10月10日 (木) 10月24日 (木)	10月8日 (火)

※入札参加資格・入札条件等詳細については下記へお問い合わせください。



ホームページアドレス <http://www.kisokan.com>

理事長 勝野 智明

本部事務所：長野県木曾郡上松町正島町2-45

☎0264-52-2480 FAX0264-52-2324

荻原事務所：長野県木曾郡上松町荻原字中島1431-1

やぶ原土場：長野県木曾郡木祖村藪原844-1

坂下事務所：岐阜県中津川市坂下133-1

☎0264-52-2483(代) FAX0264-52-4885

☎0264-24-0085(代) FAX0264-24-0086

☎0573-75-3178(代) FAX0573-75-3172

長野県造林協会 第21回通常総会 R6 森林・林業セミナー

7月3日、長野市の長野県林業センターにて、第21回長野県造林協会通常総会及び令和6年度森林・林業セミナーが開催されました。

令和5年度は、森林・林業セミナーとして、那須法律事務所の品川尚子弁護士を講師に迎え、「森林経営管理制度のヒントとコツ」森林経営管理法の特例措置か？令和3年改正民法の所有者不明土地管理制度か？」と題して講演をいただいたほか、東京都で行われた森林整備事業研修会や長野県林業薬剤防除協会が主催の「森林病虫害防除研修会」へ参加しました。一方、関係機関と連携し、県選出の国会議員への要請活動も実施しました。



長野県造林協会とは？

79の会員（60市町村、15森林組合、4県域団体）によって構成され、再造林の推進や森林資源の有効活用、森林・林業に関する知見を深める活動のほか、森林整備に関する政策提言を、上部団体である「日本造林協会」を通して実施しています。

▲林業界のみならず多様な業界から注目を集める株式会社中川の取組み

木を伐らない林業
～株式会社中川の取組み～

日時：令和6年7月3日(水)14:00～
場所：長野県林業センター5F
(長野市東区2-3-1)

全国的に今注目されている「造林育林業」に学ぶ！

【プロフィール】
1983年和歌山県生まれ。
大学卒業後インドネシアのスラバヤで製糖の仕事を2年半経験し、地元に戻った。
2008年地元森林組合に就職。2016年に『育林は育人』という社訓とともに株式会社中川を創業し、2017年に就職『木を伐らない林業』を提唱し、現在27人の従業員と山を育てている。
2020年に株式会社GREEN FORESTERSを創業。現在は相談役を務める。創業8年で自社から7人が9都府県で起業。自社開発ドローンを活用し、地域で広がるドングリからオーガニック食品を作り、持続可能な『あたりまえ』を林業で目指している。
専攻する経営者はトトロとマイク・ワリスズキ。

講師
株式会社中川
創業代表取締役
中川 雅也 氏

主催：長野県森林組合連合会・長野県造林協会

▲質疑応答は予定時間を超えてもなお続いた

子どもとの時間を増やしたいというきつかけから株式会社中川を起業した経緯について述べ、「現在の林業の課題と弊害」として森林・林業白書のデータを交えて論じ、その課題を解決するため、株式会社中川が取り組む「どんぐりビジネス」が紹介されました。

どんぐりビジネスとは、山林所有者と株式会社中川との間で山の維持・管理について契約を行い、自社や地元企業等と連携し、どんぐりから生産した広葉樹苗を山林に植えていく事業です。どんぐりが作るビジネスは、苗の生産や山の維持管理、獣害対策だけではなく、教育やSDGsへの貢献といった、林業に直接の関わりを持たな

令和6年度森林・林業セミナーでは、造林を専門として「木を伐らない林業」を提唱し、和歌山県で事業展開する株式会社中川の中川雅也氏を講師に迎え、講演をいただきました。

▲セミナー告知チラシ

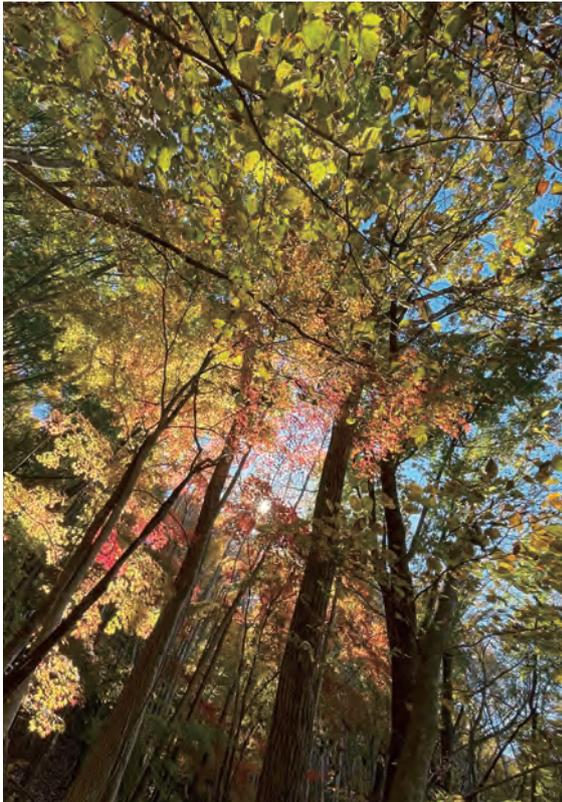
最後に持続可能な林業に向けて、取り組んでいる具体的な事例を交えながら講演を終えました。質疑応答では、様々な異業種とのコラボ事業を思いついた理由や、人材確保の方法、産業用ドローンの有効活用の方法など質問が相次ぎ、盛況のうちにセミナーが終了いたしました。

林業での画期的な事業を生みだし、これまでの林業業界には無かった視点での解説があり、今後の業務の参考になる講演でした。

引き続き長野県造林協会では、各方面に森林の大切さと林業の役割の重要性を認識していただけるよう活動を推進してまいります。

い人にも関わりを作るビジネスモデルとなっております。

講演の後半では、「きつい・汚い・危険・給料が安い」という林業のイメージによる働き手の減少という課題に対する人事労務管理をテーマに、株式会社中川が取り組む独自の方法が話されました。「どんな人でも自分で自分を養える状況を作る」という目標のもと、造林の業務実態に合わせた日給制や余裕を持った6時間のフレックス勤務の導入、会社内での全従業員の給料の公開や独立時に社内からヘッドハンティングを認める制度などユニークなもので、参加者は自身が働く場所に置き換えて考えながら熱心に耳を傾けていました。



第9回農林中金森林再生基金事業

甦れ！北アルプス地域の里山

～立木の三次元データ化と需給マッチングによる広葉樹林の活用と再生～

荒廃林の再生事業の中でも特に高い波及効果が見込まれる事業や先進性のある事業を中心に、地域の中核を担う林業事業者（非営利の法人）の事業実施態勢の整備をサポートを目的に農林中央金庫が助成する「公益信託 農林中金森林再生基金」の第9回助成案件に、当事業（実施団体：北アルプス森林組合・長野県森林組合連合会）が採択され、7月16～17日に東京都で開催された、第18回森林組合トップセミナー・森林再生基金事業発表会で報告を行いました。



▲今回、事業地となったのは、北安曇郡池田町の大峰高原に隣接する、コナラやクリを主林木とする11.6ha北アルプスの眺望が美しい西側斜面の林齢60年生を超える旧薪炭林の二次林だ

事業の背景と目的

北アルプス地域は県内でも特に広葉樹林の割合が高く（民有林の67%）、その多くが以前は薪炭林として使われていた二次林で、これまでは主な販路がパルプ材やバイオマス材であったことから経済的に林業経営が成り立たず、長年放置され、更新が困難な林齢を迎えつつあり、その活用と次世代への更新が課題となっています。

本事業では、広葉樹材の価格向上と販路の開拓に重要となる森林資源情報の三次元データでの把握方法を検討すると共に、低コストで高効率に広葉樹林を維持・更新する方法を検証することで、当地域の特性に合った新たな広葉樹林業の確立を目指しました。

①三次元データ取得による需給マッチング



▲計測した3Dデータ

需要に合わせた広葉樹資源の活用を実現していくため、森林に価値のある立木がどの程度賦存しているか事前に把握することが重要と考え、LiDAR機能を搭載したアップル社のiPhoneを活用し、マプリー社のアプリ「mapry林業」を用いて、立木の幹部分の三次元データを取得する手法を採用しました。

対象とする優良木の周囲を端末をかざすことで手軽にデータ取得が可能で、取得したデータをプラットフォーム「3D木材市場」に掲載して需要者側の求める情報を整理しました。

プラットフォームでは、ECサイトのように立木写真が並び、写真上で寸法を計測したり三次元データを任意の角度で閲覧して木取りを検討したりすることができます。（※左下QRコードを参照）

3D木材市場（マプリー社）へのアクセスはこちらから
※アカウント作成が必要





▲意見交換会の様子と出材した広葉樹材
立木の育った地域や歴史、環境等の情報も価値となる

取得した三次元データが需要者側にとつてどのような価値があるか要望を伺うため、地元の木工作家や家具職人に加えて大手家具メーカーや木材流通、林業関係者を参集し、現地での講習会を開催しました。

その中で、木口の情報が無い状態での購入判断は現状では難しいが、山に木を見に行く動機付けや周囲の写真や森の履歴等のストーリー性を持たせることで、木材としての付加価値を高めて顧客への訴求力アップを図ることが重要ということが判りました。

また、一定規格以上のナラやクリについては、家具用材として新たな販路開拓を行うことができました。

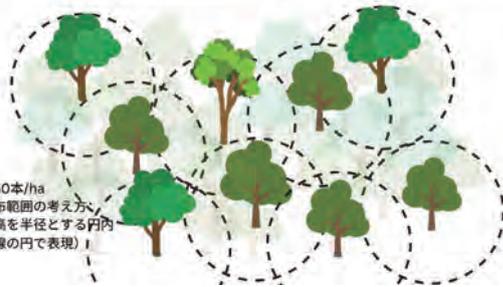
伐採後に次世代の森林へ更新を促すことを目的として、「皆伐母樹保残」という手法を実施しました。

②皆伐母樹保残による資源活用と更新

種子を散布する木（母樹）のみを一定間隔で残し、林床の光環境確保のためその他の木は伐採する方法で、地域特性や種子散布方法、木材価値などをポイントにコナラ、クリ、サクラ、ケヤキ等を中心として、太い下枝やパランスの良い枝張りなど素性の良い木を考慮し、伐採の作業効率や保残木への損傷リスク、災害のリスクを鑑みて母樹や保残度合を検討し、伐採後の萌芽更新と天然下種更新に取り組みまし



伐り方の考え方 母樹はクリやコナラを主とする。母樹間は約16mとし、種子の散布範囲を考慮しながら皆伐母樹保残を実施。



保残木：50本/ha
種子の散布範囲の考え方、母樹の樹高を半径とする円内（図中破線の円で表現）

▲母樹選定のイメージ図
◀天然更新の状況と萌芽更新するコナラ

た。

事業実施後は、3〜11万本/haの萌芽や稚樹の発生が確認されており、食害や光環境の影響等を考慮しながら確実な更新が実現できるように継続的にモニタリングを行っていく予定です。

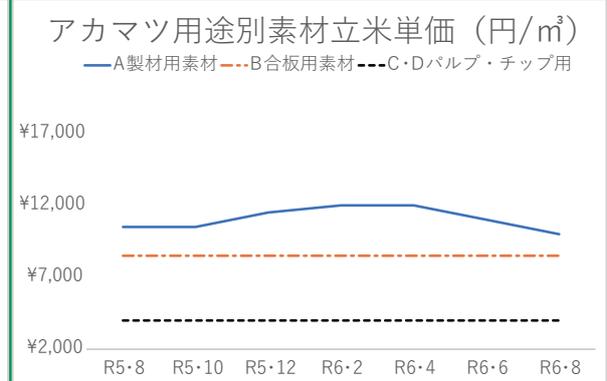
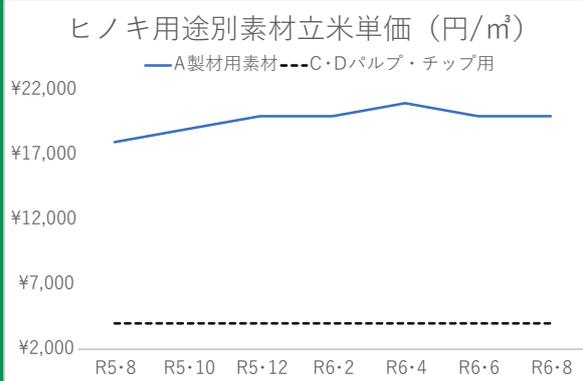
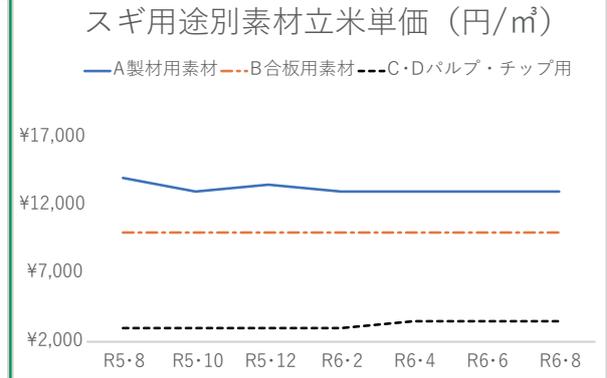
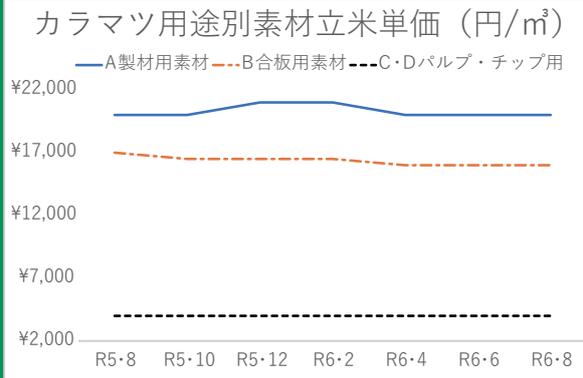
県内では、広葉樹をメインに伐採・搬出してその後の更新を促す事例はまだ少ないため、本事業で得た知見を活かし、広葉樹資源の価格の向上と低コストで高効率に広葉樹林を維持・更新していく方法を検証し、地域の特性に合った新たな広葉樹林業の確立を目指していきます。

今回得られた素材生産費用及び販売収入から判断すると、収益性から広葉樹施業を行うのは非常に困難な結果となりましたが、年々高まる新材の需要や家具材としてのコナラやクリ、特定利用材としてのシラカンバなどの高価格販売ルートを新規開拓し、実際に広葉樹材を生産することで市場拡大に繋がったことは非常に大きな収穫となりました。また、広葉樹板材の需要も見出されたことから、北アルプス森林組合が所有する製材所を活かした事業展開も期待されます。



▲事業地に設置した看板
大峰高原七色大カエデのお供に、再び育ちゆく広葉樹の森を見にお立ち寄り下さい

JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

連日の猛暑の中、各木材センター8月の市売に多くのご出品をいただきありがとうございました。広葉樹についてはクリやさくら、ナラを中心に材出いただきましたが、材が痛みやすい時期で需要にも一服感があり、良材であっても冬場のような価格には至りませんでした。

製材用丸太については、カラマツには一定の需要があるものの、スギ・ヒノキともに低調な推移となっております。また、合板向けも需要低調で厳しい状況が続いています。

11月には各センターで記念市が開催される予定となりますので、これから伐採・または出材を計画されている方は各木材センターご相談ください。



【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

出材には合法認定業者の登録をお願いするとともに出材時にはその都度、合法認定番号及び伐採地と伐採箇所を詳しく記載した納品書及び伐採届の提出をお願いします。(安全のため荷下ろし、積み込みの際には車止め、またヘルメットの着用をよろしくをお願いします。)

ちょっと木になるハナシ ～針葉樹?広葉樹?～

日々木材センターに出材される木は、カラマツやヒノキなどの針葉樹とナラやケヤキなどの広葉樹と大きく2つに分けられます。その違いに迫ってみましょう!

わかりやすいのはその名のとおり形状です。針葉樹は、葉が細かく針のように細かくとがったものとなり、「仮道管」が水の通り道であるとともに木を支える構造となっているのが特徴です。広葉樹は、葉が広く平になった形のものも多く、水の通り道である「道管」と木を支える「木部繊維」で組織構造が複雑に構成されています。

針葉樹材は、軽くてまっすぐ育つ特徴と加工のしやすさから建築の構造材として使われることが多いです。広葉樹材は、細胞の密度が高く空気を通す穴が少ないことから重くて硬いものも多く、強度と硬さを生かし机や椅子、床材等に多く使われています。

樹種は、針葉樹は約500種類ほどになのに対し、広葉樹はなんと20万種類以上になるといわれています。

▲針葉樹(カラマツ)と広葉樹(コナラ)

身近な木製品にどんな樹種が使われているか、「木」にしてみてもいいかな?



県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております!

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください!

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪

